



ID: 1429

科目名	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ【26年度生用】			コード	
英語表記	Social work practicum Ⅱ				
担当教員名	梅木 幹司・横山 順一・福田 みのり			年度	平成26年度
基準年次	4年次	開講期	通年		単位数
授業形態	実習	授業形式			履修形態
授業概要					
社会福祉援助技術現場実習Ⅱでは、相談援助業務と多職種との連携について理解し、援助技術を学ぶことを目的として実習を行う。実習担当教員と実習施設における実習指導者と十分に議論を重ね、体験・振り返り・日々の目標設定等を実行して、社会福祉士の援助技術について実践的に学習する。					
到達目標					
・相談援助業務と多職種連携について理解する。・利用者のニーズを把握し支援計画を立てることができる。・相談援助業務の実際と地域における当該実習施設の役割や他機関との連携に関する援助技術を習得する。・利用者やその関係者(家族・親友・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価について理解する。					
授業計画					
第1回	実習指導者による指導を受け、相談援助実習指導担当教員による巡回指導を受ける。				
第2回	「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」では、相談援助の実際を中心に以下のことについて学習する。				
第3回	・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや				
第4回	人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成				
第5回	・利用者理解とその需要把握及び支援計画の作成				
第6回	・利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との援助関係の形成				
第7回	・利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価				
第8回	・多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際				
第9回	・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の				
第10回	一員としての役割と責任の理解				
第11回	・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービス管理運営の実際				
第12回	・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけ				
第13回	としてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解				
第14回					
第15回					
評価方法と基準			評価項目と割合(%)		
評価の配分は、実習評価表、自己評価表、実習日誌、実習計画書、実習のまとめ、実習報告書から総合的に評価する。実習中の態度次第では、実習を中断し評価の対象とはしない。			出席	授業態度	レポート
			期末試験	その他	
授業外学習			テキスト、教材		
			「ソーシャルワークハンドブック」山口福祉文化大学「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版		
参考書			受講生へのメッセージ		
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱの授業において適宜紹介する。必要がある場合は、個別指導時に紹介する。			社会福祉士指定科目。国家試験受験希望者は必修。実習中は、健康に十分に留意し、積極的な学習態度で臨むこと。実習担当教員とは、常に連携をとること。実習中は無断欠席は絶対に許されない。		
キーワード					
多職種連携 支援計画 エンパワメント アウトリーチ ネットワーキング					